

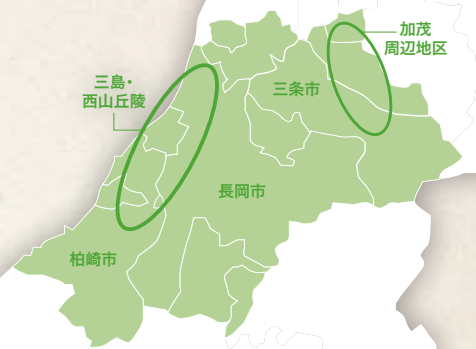


中越地域林業成長産業化推進協議会
専門部会 (H30.1.31)



中越地域林業成長産業化推進協議会
設立総会 (H29.10.6)

図1「新潟県中越地域の位置図」



新潟県中越地域

「豪雪地のハンデキャップ」を克服して

素材生産倍増への挑戦

林業成長産業化地域創出モデル事業 ⑭

中越地域の現況

中越地域(図1参照)は新潟県のほぼ中央部に位置し、長岡市、三条市、柏崎市など11市町村からなり、総面積約24万haで民有林面積は約11万ha、そのうちスギ人工林は約3万haを占めています。なかでも北部の加茂周辺地区や西部の三島・西山丘陵地は人工林率が高く、古くから林業が盛んで主伐可能な高齢林分が多く存在しています。一方で当地域の多くは、冬期間の積雪や湿雪が障害となり、年間を通じた安定的な木材生産が困難であること、地域内での川上と川中・川下の結びつきが比較的弱いことなどにより、地域材の生産・利用を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

林業成長産業化に向けた 主な取組

こうした現状を踏まえて、林業、製材業や行政機関など20団体からなる協議会を設立し、平成29年度から林業成長産業化地域創出モデル

事業の取組を開始しました。林業成長産業化地域構想(図2参照)では、各分野の関係者連携強化による「地域森林資源の循環利用サイクルの確立」を目指し、①大規模集約化対策、②素

材生産体制強化対策、③再造林促進対策、④木材情報一元化対策、⑤県産材利用拡大対策を重点プロジェクトに位置づけています。特に、川上の活性化が成長産業化に向けた牽引役にな

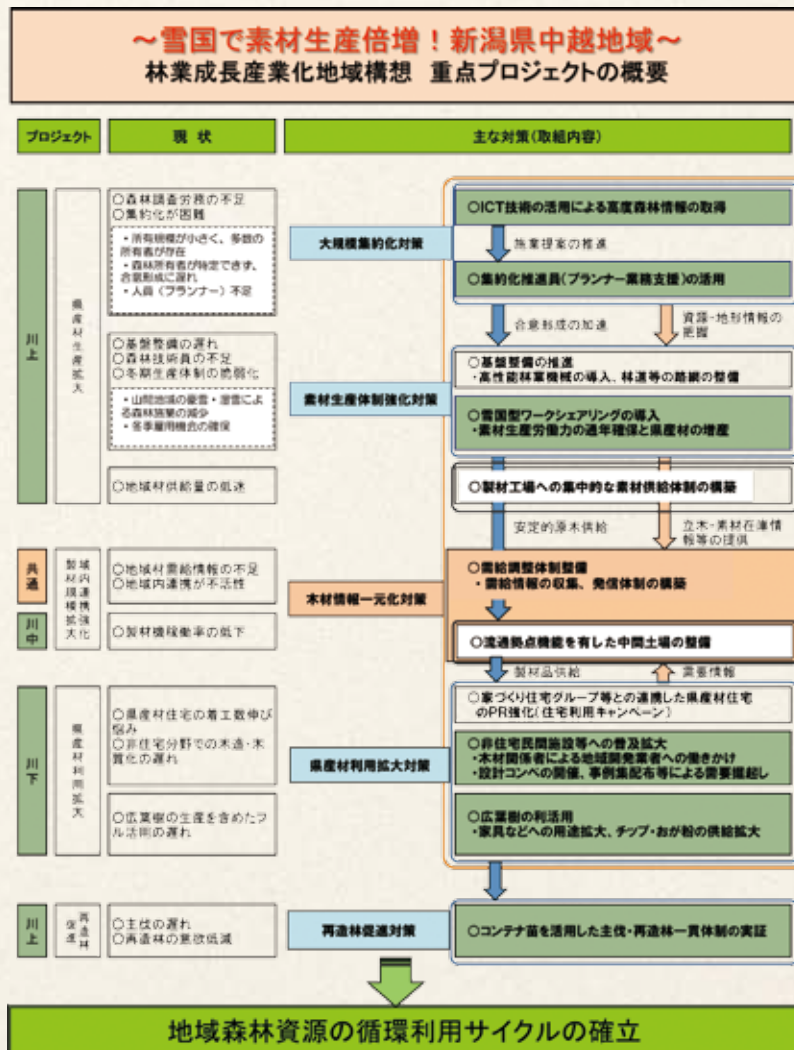


図2「中越地域林業成長産業化地域構想の概要」



冬期間施業（搬出作業）



冬期間施業（伐木作業）



豪雪地におけるスギの根元曲がり



スギ大径木の伐採
（三条市上大浦地内）



主伐跡地でのスギコンテナ苗植栽



中間土場の整備
（台資^{だいさん}※及びホイールローダー導入）
※車両等をはかる大型の秤^{はかり}



スギ心去り材の変形抑制技術実証試験

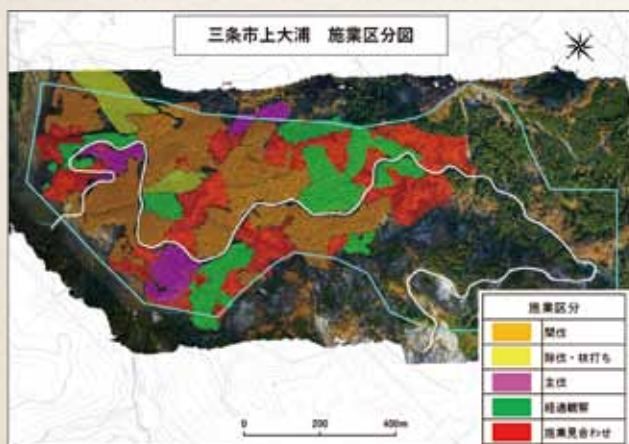


図3 「U A V画像解析による森林情報の取得
（施業区分図）」

3

これまでの主な取組

とを考え、「雪国で素材生産倍増！」をスローガンに掲げ、素材生産量を計画期間内に倍増させる目標値を設定し取組に力を入れています。

中越地域が抱える豪雪地のハンデを克服し、生産を倍増させるため次の取組を進めています。

①ICT技術の活用による高度森林情報の取得

限られた人員の中で素材生産量を拡大させるためには、事前準備の省力化を図りながら、より多くの施業適地を把握し、確実に実施することが求められます。そのため、スギ林分が多い2箇所を「素材生産重点地区」としてモデル的に設定し、ICT技術を用いた森林情報等の取得を行っています。平成29・30年度はUAV（ドローン）撮影の画像解析で、また令和元年度からは航空レーザ計測を用いた手法により施業の適否を判別し大規模集約化を進めています。（図3参照）

②雪国型ワークシェアリングの導入

素材生産拡大のもうひとつ重要なポイントは、労務の確保と乗せと施業適期における集中的実施です。中越地域の平野・山間部は特別豪雪地帯であることから、冬場の生産量確保や森林技術員の通年雇用化に課題を抱えています。このた

め、少雪地域と多雪地域の事業者が協業体制を構築（雪国型ワークシェアリング）し、山間部の施業は夏場に集中して、冬場は雪の少ない海岸部を中心に行う取組を進めています。人員不足の事業者が自らと同程度の技術レベルを有する労務を複数確保できることは、新規雇用の確保が厳しい現状の中で、互いの事業者にとってWIN-WINの関係性を築きながら、生産量の増大と平準化につながるものと期待しています。

③コンテナ苗を活用した

主伐・再造林一貫体制の実証

森林の循環利用体制の確立のために不可欠な要素は、低コストで行う再造林の対策です。具体的には、次に控える地拵^{じしち}えや植栽作業を考慮した伐採や搬出を行うこと、植栽作業の効率化やその後の保育管理作業の省力化を図ることが重要です。近年広葉樹植栽を望む森林所有者も多くなりましたが、中越地域の林業において、スギに取って代わるものは今のところありません。本取組は、新潟県ではまだ取扱量の少ないスギコンテナ苗について、多雪地域に適合した苗木の選定、植栽後の生育経過等の調査を県森林研究所と協同で実施しています。本調査成果を基に、本県に適したスギコンテナ苗の植栽・育林技術の確立を目指して、今後も取組を進め

4

結びに

ていきます。
なお、これら川上対策以外にも、スギ大径材の有効活用に向けた製材時の「心去り材変形抑制技術」の実証試験など、川中・川下対策もあわせて進めながら地域林業の成長に向けて取り組んでいるところです。

新潟県内においても、決して林業先進地とはいえない当該地域の挑戦が、ものの流れ、ひとの動きや考え方に変化をもたらすきっかけづくりとなることで、将来的に何倍もの価値が生まれる取組になるように、また、この取組が先行事例として県内の他地域に波及することで、新潟県全体の林業・木材産業が好循環で展開・発展するように、関係者一同今後も精一杯取り組んでまいります。（中越地域林業成長産業化推進協議会 事務局）